

美容文化論問題

1 美容・美容の総論と日本の理容業・美容業の歴史に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 美容とは、髪・顔・体形などの美しさ、または美しくすることを指す
- ② 理容には、理髪と美容の意味が含まれている
- ③ 大正から昭和にかけて、東京、大阪、名古屋、神戸などに美容講習所や美容・美髪学校などが多数設立された
- ④ 1957（昭和32年）、美容師法が制定され、理容業、美容業を一元的に規制した

2 日本の理容業・美容業の歴史に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 江戸時代、町内に床（店舗）を構えて営業するものを出床とよんだ
- ② 月代にする風習は武士の間に起ったものである
- ③ 理容業の前身、髪結床が町中にみられるようになるのは、室町時代末ごろ、京都においてである
- ④ 「町々髪結名前書上之事」は、1655年（明暦元）年に出された江戸幕府の法令で、髪結いを業としている者は、すべて名前を書き上げて申告するように、という趣旨である

3 日本の理容業・美容業の歴史に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 髪結床が発生したころの男性は、頭頂部を月代にしていた
- ② 元結とは、髻を結び束ねるためのひものことである
- ③ 江戸時代、床（店舗）をもたずに、親方のところから鑑札をもって客のところに出張する者は、「廻り髪結い」とよんだ
- ④ 理容業の前身、髪結床が町中にみられるようになるのは、江戸時代末ごろ、江戸においてである

4 日本の理容業・美容業の歴史に関する次の記述のうち、正しいものはどれか

- ① 江戸時代、床（店舗）をもたずに、親方のところから鑑札をもって客のところに出張する者は、「女髪結い」とよんだ
- ② 理容業の前身、髪結床が町中にみられるようになるのは、室町時代末ごろ、京都においてである
- ③ 1957（昭和32年）、美容師法が制定され、理容業、美容業を一元的に規制した
- ④ 1947（昭和22）年、理容師法が制定され、理容師は美容師と別の法律で規制されることになった

5 明治時代の女性の髪型に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 丸髷は、既婚女性の髪型として結われた
- ② 束髪は、日本髪に比べ手入れがしやすく衛生的で日常生活に便利であった。
- ③ 女性の断髪は強い非難を浴び、東京府は女性の断髪を禁じた
- ④ 唐人髷（とうじんまげ）や結綿は、代表的な束髪である

6 次の明治時代の女性の髪型のうち、束髪に該当するものはどれか

- ① 銀杏返し ② 結綿 ③ 桃割れ ④ 二百三高地髷（まげ）

7 明治時代の女性の髪型に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① まがれいとヤギリス結びという髪型は、代表的な西洋束髪である
- ② 束髪は、上流階級や知識層の女性にまず受け入れられ、さらに働く女性に普及していった
- ③ 日本髪は、明治時代に入ってから結われなくなった
- ④ 明治16年に建設された鹿鳴館での舞踏会は、女性の洋装や洋髪の出現に影響を与えた

8 明治時代の服装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 宮中における大礼服や通常礼服が洋装と規定された ③ 女性の車掌（バスガール）が登場し、洋装の制服が採用された
- ② 警官や鉄道員などの制服が洋装となった ④ 海老茶袴（えびちゃばかま）が女学生の代名詞として流行した

9 明治時代の女性の髪型に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 洋服を着る人はごく一部で、和装に束髪という組み合わせが発達した ③ 日本髪は、日常的には結われなくなった
- ② 束髪は、日本髪よりも衛生的で手入れがしやすく、日常生活に便利であった ④ 束髪は、和装、洋装ともによく似合う髪型である

10 明治から昭和初期にかけての髪型や服装などに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 明治時代になると、「婦人束髪会を起す主旨」によって、束髪が広がったが日本髪も多くみられた
- ② 新劇女優によって、前髪を七三分けにした女優髷が結われた
- ③ 大正末から昭和のはじめにかけて、東京・銀座で、みゆき族が出現した
- ④ 大正時代マーセルウェーブが導入され、ウェーブをつけた髪で耳を隠す洋髪が流行した

11 大正時代の女性の髪型に関する次の組合せのうち、誤っているものはどれか

- ① 耳隠し・・・マーセルウェーブ ② 日本髪・・・二百三高地髷 ③ 断髪・・・モダンガール ④ 女優髷・・・新劇女優

12 大正時代の服装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 都会の男性会社員の間で背広上下が普及した ③ 女学生の制服として、セーラー服とスカートが考案された
- ② 軍服をモデルに国民服がつけられた ④ 女性の車掌（バスガール）が登場し、洋装の制服が採用された

13 第2次世界大戦以降のファッションの変遷に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 大戦後の洋装は、アメリカ進駐軍女性の制服をヒントにした肩パット入りのジャケットなど、アメリカンファッションが手本であった
- ② 1948（昭和23）年ごろから、アメリカンファッションの影響を受けた膝丈より長めのロングスカートが流行した
- ③ 1954（昭和29）年に封切られた映画『ローマの休日』の影響から、サーファーカットが流行した
- ④ 1950年ピエール・カルダンが来日して立体裁断を伝えた

14 次のうち、1958年のパリコレクションで多くのデザイナーに採用され、日本で大流行した筒形で袋のようなシルエットの洋服はどれか

- ① ミニスカート ② ロングスカート ③ サックドレス ④ マンボズボン

15 1960年代にわが国で流行したミニスカートに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① ツイギーの来日後に、流行のピークを迎えた ③ 背の低い傾向の日本人に合うスタイルとして、世代を超えて受け入れられた
- ② 若者の間に流行した服装で、ヒッピーファッションと呼ばれた ④ 脚の露出部分が多くなるので、ブーツも流行した

16 1960年代の服装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 東京・銀座で西銀座族やみゆき族と名付けられた若者たちのファッションが話題となった
- ② 高田賢三が、アメリカのアイビースタイルをアメトラ（アメリカン・トラディショナル）ファッションとして定着させた
- ③ パリのオートクチュールデザイナーが作りはじめた高級既製服が日本でも販売されるようになった
- ④ アンドレ・クレージュがミニスカートをパリ・コレクションで取り上げ、話題となった

17 1960年代の服装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 東京銀座では、みゆき族と名付けられた若者ファッションが話題となったが、短期間で終わった
- ② 黒とダークな色が主体であった男性ファッションをカラフルにしようとする「ピーコック革命」という動きが起こった
- ③ パリのオートクチュールデザイナーが高級既製服を販売したことにより、日本でも既製服時代が到来した
- ④ ワンレングスカットと、ボディラインを意識してウエストを細くした服装の「ワンレン・ボディコン」が話題となった

18 次のうち、1960年代から1970年代にかけて流行した若者男性のヘアスタイルに該当しないものはどれか

- ① ロングヘア ② マッシュルームカット ③ アフロヘア ④ GIMJ

19 次のうち、1970年代に流行した襟足あたりは長めで、段々に削いだ野性的な髪型はどれか

- ① ヘップバーンカット ② セシルカット ③ マッシュルームカット ④ ウルフカット

20 1960年から1980年代にかけての髪型や服装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 1960年代半ばのアメリカの公民権運動から前面に出てきた、黒人の縮れた髪、アフロヘア・スタイルが日本においても登場した
- ② 1970（昭和45）年ごろから流行した女性のヘアスタイルでセシルカットがある
- ③ 1981年からパリコレクションに進出した山本耀司、川久保玲のデザインが「黒の衝撃」として注目された
- ④ 1980年代に、毛先から細かくウェーブをつけたソバージュが流行した

21 1960年から1980年代にかけての髪型や服装に関する次の記述のうち、正しいものはどれか

- ① 1964（昭和39）年の東京・銀座で、「竹の子族」とマスコミに名付けられた若者たちが話題になった
- ② 1960年代には、映画『ローマの休日』の影響から、ヘップバーンカットが流行した
- ③ 1970年代にヴィダル・サスーンが来日し、幾何学的なサスーンカットが紹介された
- ④ 1980年代後半、「ワンレン、ボディコン」という言葉が流行した。ワンレンとは、段を付けた、頭髪全体を短くした、スタイルである

22 1950～1980年代の服装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 1958年にソフィアローレンが来日して、立体裁断を伝えた
- ② 1960年ごろ、ロンドンでメアリークワントがミニスカートを商品化した
- ③ 1964（昭和39）年の東京・銀座で、「西銀座族」とか「みゆき族」とマスコミに名付けられた若者たちが話題になった
- ④ 1981年からパリコレクションに進出した山本耀司、川久保玲のデザインが「黒の衝撃」として注目された

23 昭和時代に流行した髪型に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① セシルカットは、映画『ローマの休日』のヒロインの髪型である
- ② ソバージュは、髪全体に細かくパーマをかけてウェーブをつけた髪型である
- ③ 聖子ちゃんカットは、前髪は目に掛かるか掛からないほどにし、サイドは後ろへ流す髪型である
- ④ ウルフカットは、襟足を長めにして段々に削いでいくため段カットともよばれた

24 昭和時代に流行した髪型に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① ヘップバーンスタイルとは、後頭部で束ねた毛束を子馬のしっぽのように垂らした髪型である
- ② サーファーカットとは、肩よりやや長めのセミロングのレイヤードヘアである
- ③ ソバージュとは、根本から毛先まで細かくパーマをかけてウェーブをつけた髪型である
- ④ セシルカットとは、髪全体を極端に短くしたボーイッシュな髪型である

25 古代エジプトやギリシャのファッション文化史に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① くじゃく石は、クレオパトラのアイシャドーとして使われていたことで有名である
- ② 古代エジプトでは、かつらは上流階級のシンボルであった。かつらは、長頭目の大きいもので、人毛・羊毛・しゅろの葉の繊維などを材料とした
- ③ 古代ギリシャでは、ドレスは薄手のウール地や精巧な織りのリネンが使用された。ウール地を用いた代表的なものがイオニア式キトンである
- ④ 化粧品は英語でコスメティック（cosmetics）であるが、その語源は「整った」、「秩序だった」という意味のギリシャ語『Kosmos』に由来している

26 古代エジプトやギリシャのファッション文化史に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 古代エジプトでは、上流階級の男性がかつらを使用し、上流階級の女性は使用していなかった
- ② 古代エジプトでは体を清め、肌を滑らかにするための香油づくりにも非常にすぐれた技術をもっていた
- ③ 古代ギリシャでは、デリケートなブリーツ加工を施したリネン地で、体の線が透けて見えるシースルーのイオニア式キトンなどが着用された
- ④ 古代ギリシャでは、髪やひげを整える理髪所が出現した

27 中世のヨーロッパにおけるファッション文化史に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 中世初期～13世紀ごろまで、女性のヘアスタイルやメイクは、教会により万事控え目が求められ、華美なスタイルは厳しく規制されていた
- ② 12世紀後期にはエスコフィオンとよばれる首元を覆う布が、ヘルムとともに用いられるようになった
- ③ 14世紀後半から15世紀中ごろに、英仏両国では理髪師たちの同業組合が作られた。
- ④ 15世紀になると、上流の女性のかぶり物としてエスコフィオンと総称されるものが作られた

28 16～17世紀のヨーロッパにおけるファッション文化史に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 17世紀には、男性は長い髪が高い身分のシンボルとなり、そこで、かつらが大流行した
- ② 中世末期のエナンやエスコフィオンのような女性のかぶり物は、16世紀にはいっても好んで使用された
- ③ 男性の髪型は、16世紀は短髪が主流であったが、17世紀初頭にはラブロックとよばれる、カールさせた一房の長い巻き毛に蝶結びのリボンをつけて前に垂らすスタイルが流行した
- ④ 17世紀後半に評判となった女性の髪型のユルリ・ベルリュは、前、両横の毛をカットして焼ぎごてなどを使って、派手ならせん形の巻き毛や縮れ毛の房をサイドにあしらったスタイルである

29 16～18世紀のヨーロッパにおけるファッション文化史に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 17世紀に大流行した髪粉は、18世紀にはいと使われなくなった
- ② 16世紀ヨーロッパでは、入浴は体に害があると信じる傾向があり、入浴の習慣は衰えを見せた。そのため体臭を意識して香水への欲求が高まった
- ③ 17世紀後半に評判となった女性の髪型のフォンタンジュ風は、レースのリボンを前髪で結ぶのが特徴で、やがて針金の骨組みを入れて高くしたものとなり、レースもフリルにたたんだものを何段も重ねて高々と飾り付けるようになった
- ④ 18世紀には、静脈を青色でなぞって強調することが、フランス宮廷の女性に流行した

30 16～17世紀のヨーロッパにおけるファッション文化史に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 16世紀後半になると、頭髪の薄くなった男性にはかつらの使用がみられ、同時にペレー帽タイプのかぶり物が流行した
- ② 16世紀のフランスの男性の間では短髪が流行した
- ③ 17世紀初頭にはカドガンとよばれる、カールさせた一房の長い巻き毛に蝶結びのリボンを付けて前に垂らすスタイルが流行した
- ④ 17世紀後半には、髪やかつらに色の髪粉をかけることが流行した

31 18世紀～19世紀ごろのヨーロッパにおけるファッションや髪型などに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 18世紀中ごろまでの女性の髪型は、前髪を巻き毛にする程度の比較的自然なスタイルが多かった
- ② 18世紀には、髪粉はほとんど使用されなくなった
- ③ 19世紀には、化粧品に使用されていた鉛や水銀の毒性への警戒心がいっそう認識され、1866年には無害の酸化亜鉛（亜鉛華）が発見され、徐々に普及していった
- ④ 19世紀末に上流階級の男女にサイクリングが流行し、そのため、女性は当時では画期的なブルーマーズとよばれるズボンをはいた

32 18世紀～19世紀ごろのヨーロッパにおけるファッションや髪型などに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 1760年代以降、驚くほど高く大きい女性の髪形が登場し、18世紀末まで続いた。土台として、針金の骨組み、馬毛や綿で作られたかつらが使用された
- ② フランス革命後、女性の髪型は革命前のような巨大なスタイルはなくなり、古代ギリシャ・ローマ風のスタイルが流行した
- ③ 18世紀末から19世紀中ごろまでのヨーロッパでは、各地でシルクハットがかぶられていた
- ④ フランス革命後の男性のファッションの大きな変化は、長ズボンではなくキュロットを取り入れたことである

33 18世紀～19世紀ごろのヨーロッパにおけるファッションや髪型などに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 18世紀前半のフランス宮廷の女性には、静脈を青くなぞって強調することが流行した
- ② 男性かつらで、ラブロックはテール部分を襟足で折り返して輪にし、ひもや蝶結びのリボンで留めたもので、前髪を高く上げているのも特徴である
- ③ フランス革命後、男性の髪型は、貴族階級に見られた長いスタイルやかつらがなくなった
- ④ 19世紀初期のヨーロッパでは、女性のヘアスタイルは簡素なものが好まれた

34 18世紀～19世紀ごろのヨーロッパにおけるファッションや髪型などに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 18世紀後半の上流の女性の髪は、といたり、櫛を入れたり、洗ったりすることはできなかった。悪臭は香水でごまかしていた
- ② フランス革命後、女性の髪型は古代ギリシャ・ローマ風のスタイルが流行した
- ③ 19世紀末に上流階級の男女にサイクリングが流行し、そのため、女性は当時では画期的なキュロットとよばれるズボンをはいた
- ④ 19世紀末には髪の漂白技術として、過酸化水素水を使う方法が知られ、人工的に金髪にすることが広く行われるようになった

35 20世紀のファッション文化史西洋編に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 20世紀初頭には前髪を巻き毛にしたスタイルであるボンパドールを誇張したものが、上流階級の女性に流行した
- ② 20世紀初頭マーセルウェーブが普及し、髪分け方の人気は横分けから、中央分けに移った
- ③ ロンドンの美容師ヴィクトル・サスーンはミニスカートで有名になったデザイナー、マリー・クワントの1963年のコレクションでジオメトリックカットを発表した
- ④ 1980年代末期のバブル経済崩壊以降の不況の中で迎えた1990年代から、安く、気軽に手に入れやすいファストファッションに注目が集まっている

36 20世紀のファッション文化史西洋編に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 1936年、イギリスのスピークマンが薬剤を用いて40度程度の温熱でウェーブを形成するコールドパーマネントウェーブを開発した
- ② 1920年代に、歴史上初めて「日焼け色」がファッションになっている
- ③ 1930年代、映画スターであったオードリー・ヘップバーンやジーン・セバーグなどに好まれて流行したヘアスタイルは、サーティーズスターコワフとよばれた
- ④ 1960年代ロンドンのダウンタウンのティーンエイジャーから、ストリートファッションとして、ミニスカートがはじまった

37 花嫁の和装礼装に関する次の記述のうち、正しいものはどれか

- ① 懐剣は、帯の右胸下にさす。
- ② 色直しは、大振袖の二枚重ねが正式である
- ③ 小袖の身丈は、かかとの位置に仕立てる。
- ④ 小袖の上につける掛下帯は、半幅帯を二重太鼓に結ぶ。

38 和装の礼装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 和服は日本の伝統衣装であるから、あまり時代の変化に左右されることなく、正式（フォーマル）な着装が定められている
- ② 今日では花嫁衣裳における、打掛の下の小袖のことを掛け下とよぶことが多い
- ③ 黒縮緬の総模様に五つ紋を染め抜いた振袖の下に、白羽二重の下着を重ねたものは、黒振袖とよんでおり、打掛を重ねなくとも正式の花嫁衣裳とされている
- ④ 女性の礼装で、未婚者の場合は留袖を着用する

39 和装の礼装に関する次の記述のうち、正しいものはどれか

- ① 花嫁が着装する礼装は、起源は室町時代の上級武家の夫人の正装である
- ② 女性の礼装で、既婚者の場合は振袖を着用する
- ③ 黒留袖は、未婚者、既婚者の区別なく礼装として用いられる
- ④ 打掛の下に着用する小袖のことを、掛下や長着とよぶことがある

40 和装の礼装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 打掛の下に着用する小袖は、今日、留袖となっている
- ② 掛下、帯、小物等すべてを白一色でまとめた花嫁衣裳を白無垢という
- ③ 花嫁が着装する礼装は小袖の上に打掛を重ねたものである
- ④ 明治時代には、黒振袖が花嫁の礼装とされていた

41 和装の礼装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 未婚の女性の礼装で振袖の場合、染め抜き五つ紋が正式である
- ② 打ち掛けは帯を締めた上から打ち掛けて着ることからこの名称が生まれた
- ③ 花嫁の和装の礼装で、小袖の身丈は、かかとの位置に仕立てる
- ④ 黒留袖は、結婚式列席の親族、仲人婦人が着用する

42 次のうち、和装の礼装や準礼装に該当しないものはどれか

- ① 留袖
- ② 訪問着
- ③ 小紋
- ④ 振袖

43 和装の礼装に関する次の記述のうち、正しいものはどれか

- ① 男子礼装の、黒羽二重五つ紋付きの着物と羽織、袴は慶事のみに着用する
- ② 黒留袖は、未婚者、既婚者の区別なく礼装として用いられる
- ③ 準礼装の色留袖は、絵羽模様が特徴である
- ④ 第一礼装には、白の半襟を用いる

44 和装の礼装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 和装の礼装のうち、女性の準礼装で代表的なものは訪問着である
- ② 女性の準礼装である訪問着の特徴は、華やかな絵羽模様である
- ③ 黒留袖は、結婚式列席の親族、仲人婦人が着用する
- ④ 付け下げの模様は、裾だけにあしらわれている

45 和装の礼装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 訪問着は、既婚者の準礼装として用いられる
- ② 男性の礼装で、正式のものは、染め抜き五つ紋の黒の着物に、仙台平の縞柄の袴を着用し、同じく染め抜き五つ紋の黒の羽織を重ねる
- ③ 男子礼装の、黒羽二重五つ紋付きの着物と羽織、袴は既婚・未婚の区別がなく、慶弔の違いもほとんどない
- ④ 振りのある袖を振袖といい、さらに、振袖の袖丈が1メートル以上の長着のことを大振袖とよんでいる

46 洋装の礼装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 洋装の男性の礼装は、ちょうど和装における女性の礼装と同じように、種類とTPOが明確で、その歴史的背景がはっきりしている
- ② モーニングコートは、フロントラインが前から後ろへなだらかなカーブを描いてカットされていることから、カッタウェイともよばれる
- ③ 宮中晩餐会のような格式の高いところで女性が着用するドレスはローブモンタントである
- ④ 男性の夜の正式礼装である燕尾服は、色は黒で、ダブルブレスト6つボタン、ただしボタン掛けはしないで着装する

47 洋装の礼装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① わが国では、昼も夜も白のネクタイを結んだ、黒のダブルブレストのスーツが広く男性の礼装とされているが、これは欧米の習慣にはない
- ② 洋装の夜の礼装で、男性がブラックタイであれば、女性はイブニングよりは丈も短く、ややシンプルなカクテルドレスが対応する
- ③ 洋装の礼装で、男性の昼間の正式礼装はモーニングコートである
- ④ 男性の夜の略式礼装は、ディレクターズスーツが着用される

48 洋装の礼装に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 洋装の男性の夜の略式礼装としては、タキシードやメスジャケットが着用される
- ② 男性の夜の正式礼装は、燕尾服が着用される
- ③ カクテルドレスは女性の夜の正式の礼装であり、フォーマルドレスともよばれている
- ④ 洋装の女性の夜の正式礼装はイブニングドレスで、男性の燕尾服着用のホワイト・タイに対応する